

＝岩手・青森県交運労協＝

春闘の闘い、「車編」の課題で交流・研修会

2月20日岩手県交流集会

岩手県交運運輸産業労働組合協議会の「2019春闘勝利！産別間交流会」が2月20日、盛岡市・ホテルニューカーリーナで、各産別から30人(国労3人)が参加して盛会裏に開催された。

工藤和男副議長(交通労連)の開会挨拶で始められた集会は、幹事会を代表して佐藤浩



之議長(私鉄総連)が、「安倍首相が経済団体に賃上げの要請をする、6年続けたの官製春闘の様相であるが、この間労働者が実感できる賃上げとはなっていない事に問題がある。そのような中で2019年春闘が始まった。戦後74年経て世の中は便利になった。しかし、労働者に余力ができたか疑問がある。より忙しくなったと感じている。4

2月22日青森県交流研修会

青森県交運労働協会の「産別交流研修会」が2月22日、青森市の「青森県労働福祉会館」で開催された。

主催者を代表して馬場光秀議長が「交通運輸産業の労働者は、長時間労働等で疲労困憊している。昨年6月に『働き方改革関連法案』が与党等の賛成多数で可決成立したが、5年後の上限規制実施までに総拘束時間を統一した上限時間とするよう意見集約しなければならぬ。また、各

企業が貯め込んだ内部留保は大きく増加し過去最高となっている。社員やパートタイムで働く仲間の賃上げをできる体力は企業にあり、私たちは今春闘をしっかりと闘う中で暮らさなければならない」と挨拶、春闘勝利に向けた奮起を促した。

研修では「不規則勤務労働に伴う、健康管理について」をテーマに講演が行われ、青森県立保健大学・千葉敦子准教授より「しなやかな血管を保つ生活習慣を心掛けること」で脳や心臓に負担を掛けない

健康に働き続けることができると。タバコは万病の元で是非禁煙を」とのアドバイスがされた。また、交流では各産別から政策課題と春闘の現状・課題の報告がされ、国労からは田崎秋弘支部書記長がJR会社の施策や国労の取り組み、19春闘について訴えた。

江良副議長からの「青森県議会議員選挙に斎藤憲雄さんが立候補を決定してくれた。交通運輸産業で働く人の声を議会に反映させるためにも当選を勝ち取ろう」との提起を全体で意思統一し散会した。

3/16福島教育会館

原発事故忘れず風化させず 全ての原発の廃炉を求め

「原発のない福島を！県民大集会」



◇原発の廃炉を訴える参加者◇

「原発のない福島を！県民大集会」(同実行委員会主催)が3月16日、福島県の福島教育会館で開催された。集会に

は、全国から1,700人が参加し、平和環境岩手県センターや青森県平和労働組合議からも多くの仲間が参加した。

(国労からは及川孝執行委員と盛岡地区協・田山修一常任委員の2人が参加)

最初に東日本大震災で犠牲となった人々に対し全体で黙とうを行い、その後集会を開催した。主催者を代表し角田政志実行委員長が、「原発事故から8年。記憶の風化が進んでいる。福島から全国に情報発信をしていくことが必要だ。原発のない福島をめざし共有する集会にしたい。この集会で福島の現状を知り、思いを受け止めてほしい」と挨拶した。

次に、精神科医で原発運動の活動でも知られる、香山リカさんが特別ゲストとして挨拶し、「国は意図的に原発事故を終わらせようとしているが、事故はまだ継続中である。原発事故が起こると、こんなにも大きな被害となる。仮にも一度原発事故が起きれば日本は破綻してしまう。原発事故を忘れず、一緒に原発のない日本をつくる活動を広めていこう」と述べた。

続いて、◎浪江町より避難している被災者◎浪江町の中学校の先生◎第20代高校生平和大使◎消費者団体の4人が福島県民を代表しての訴えを行った。その中で、「原発事故は核による人災事故である。浪江中学校は原発事故により休校へ追い込まれた。先生・生徒は各地にバラバラになったが心は離れていない。いつまでも心を寄せ続ける。被災者の目となり耳となり口とならなければならぬ。オールフクシマで復興

を」などが報告された。また、第20代高校生平和大使の高橋花音さんが「原発事故は将来にまで悪い影響を及ぼす。核の平和利用は出来ない。若い世代から訴えていくことが大事」と力強く訴えた。

集会の最後には、東京電力福島第二原子力発電所の全基即時廃炉を県民の総意とする「集会アピール」が読み上げられ採択された。参加者はコールに合わせ、「第二原発直ちに廃炉！」とポードを力強く掲げて福島からの思いをアピールし終了した。

原発事故から8年が経過し、全国的には記憶と意識の風化が進んでいる。原発事故の被害当事者である福島県民にしかできない情報発信をしていくことを集会で確認した。

労働組合の使命として福島県民と共に、全ての原発の廃炉と再生エネルギーの転換を推進する運動に取り組んで行くことが求められている。

盛岡支部は3月9日、盛岡市の国労会館にて「盛岡支部春闘交流会」を開催しました。全体で24人が参加し、2019春闘を職場から闘いぬく決意を固め合う場となりました。

交流会は佐々木研司委員長を座長に選出して進められ、佐々木委員長は19春闘におけるJR東日本・JR貨物との交渉状況、安倍政権を早期に退陣に追い込むための統一地方選・参院選における必勝と、喫緊の課題である組織拡大について挨拶。来賓の地方本部・菊池要書書記長からは東日本本部拡大委員会での長野

地本・西村さんの特別発言の報告と組織拡大の取り組みについて問題提起がされ、菅原高明書記長が今春闘の方針を提起しました。

交流会の中では、貨物の仲間からは「本年4月から、評価制度を柱とした新人事・賃金制度が始まる」としている。交渉中にもかかわらず、職場においては説明が始まっていること、旅客の仲間からは「激変から一年が経過。若手社員とのつながりに変化が生まれてきている。関りを強くしていかなければ」と思ふ」との報告がありました。

また、宮古・釜石間の三鉄移管に伴う出向者からは「宮古駅がJRではなく三鉄の駅となることについて市民へ十分伝わっていない」との指摘や、電気職場からは「変革2022で業務が変わり、職場に戸惑い。見切り発車的な施策の実施で、若い人たちは労働組合がないことの大変さに気が始めている」との報告がありました。

発言を受けて菅原書記長が「①分会情報づくりと掲示板の活用②関わり全体化・共有化③職場を点検して職場改善要求を掘り起こし、職場で解決しようとする国労組合員の姿を未加入者・他労組合員に見てもらおうと、組織拡大へ足がかりとする運動の強化をお願いしたい」と集約し、交流会を終了。続く懇親会で親睦を深め合いました。未加入の仲間を国労に迎え入れるべく、共に頑張ろう。

報告 盛岡支部 米田勝義

盛岡支部春闘交流会

春闘・組織拡大の闘い 職場要求改善と一体で

盛岡支部は3月9日、盛岡市の国労会館にて「盛岡支部春闘交流会」を開催しました。全体で24人が参加し、2019春闘を職場から闘いぬく決意を固め合う場となりました。

交流会は佐々木研司委員長を座長に選出して進められ、佐々木委員長は19春闘におけるJR東日本・JR貨物との交渉状況、安倍政権を早期に退陣に追い込むための統一地方選・参院選における必勝と、喫緊の課題である組織拡大について挨拶。来賓の地方本部・菊池要書書記長からは東日本本部拡大委員会での長野

生活・法律相談窓口のご案内

相談日：2018年 7月12日(木) / 9月13日(木) / 11月8日(木)
2019年 1月10日(木) / 3月14日(木) / 5月9日(木)

相談時間：すべての相談日とも13時から15時まで

相談受付電話：019-622-5021 国鉄労働組合盛岡地方本部

相談場所：盛岡市内丸6-15 EST21ビル もりおか法律事務所

弁護士：佐々木 良博

※ 相談者氏名、相談内容等については、外部には一切公表致しません。(秘密厳守)

一般財団法人 国鉄労働会館 盛岡地方部

生活・法律相談
専門の弁護士が直接相談に応じます。

労働問題からサラ金問題、
財産相続問題など、
何にでもご相談ください。

無料相談